

# 会議記録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 23年 4月 22日(金曜日)	開催時刻	13時 30分から 15時 20分
会議名	丸子地域協議会(平成 23年度第 1回)		
出席委員	斉藤会長、北村副会長、生田委員、内田委員、上坂委員、笹井委員、佐藤委員、清水委員、関委員、中澤委員、成澤委員、松山委員、丸山委員、宮下委員、村松委員、山越委員、横山委員 【欠席】池内委員、倉沢委員、滝澤委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、宮澤センター次長兼地域振興課長、下村地域振興政策幹、芹澤市民生活課長、松井健康福祉課長、矢島産業観光課長、小相沢建設課長、小林消防課長、松村上下水道課長、高野丸子学校給食センター長、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

## 会議次第

### 1 開会(宮澤センター次長)

4月 1日から地域振興課長として参りました宮澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

### 2 あいさつ

- ・関センター長あいさつ

新年度新体制となり第 1回の地域協議会ということで、自治センターを代表して御挨拶させていただきます。市では、この 4月 1日から自治基本条例を施行しました。この自治基本条例は、市の行政の基本や市民との協働といった事項を定めたもので、その中で地域協議会にもふれています。地域のことについて地域協議会と一緒にやっていくということで、4月 1日からそのような状況になっています。

いま、時は東日本大震災による混乱の真只中です。大変多くの方がお亡くなりになり、いまだ行方不明の方も多くいらっしゃるという状況です。お亡くなりになられた皆様の御冥福をお祈りしますと共に、行方不明の方については、なるべく早く御家族のもとに帰られることをお祈りしている状況です。また、いま避難所で生活している方が 14万人くらいいらっしゃるということで、なるべく早く通常の生活が取り戻せればと思っています。

市では、色々な支援活動をしています。消防士が救助・救援活動で 70人参りました。支援のために給水活動、保健師が避難所での保健活動ということで行っています。4月 24日からは、各避難所のお世話をすることで、市から 1班 4人編成で、6つの班が 1週間交代で行くことになっており、わが丸子地域自治センターからも 2名の職員が支援活動に行くことになっています。とにかく、早く元通りになってほしいと思っています。

本日は、自治センターとしての目標や予算についての御説明、御報告をさせていただきますが、皆さんと一緒によりよい地域づくりのために頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

・斉藤会長あいさつ

平成 23 年度の第 1 回の丸子地域協議会開催にあたり、委員の皆様には大変お忙しい中御出席を賜りまして誠にありがとうございます。また今年 1 年よろしく願いいたします。

3 月 11 日に発生した大地震から 1 ヶ月以上が経過しているわけですが、まだ行方不明者も 1 万人以上、また、福島第一原発の事故においても、先の見通しが立たないという非常に大変な現状です。我々が住んでいる上田市は、災害も少なく余震や計画停電等も無く住みやすいところではありますが、災害はいつどんな形でやってくるかわかりません。お互い気を引き締めて日常生活を送っていただければと強く感じています。

本日は、2 件の報告をいただいた後、昨年も開催してきた分散会を予定しています。委員の皆さんと意見交換をする中で、新しい丸子地域の課題を検討していただき、協議会に出していただければと思っています。本日はよろしく願いいたします。

### 3 自己紹介

・各課長あいさつ

### 4 報告

#### (1) 平成 23 年度重点目標について (センター次長)

- ・平成 22 年度丸子地域の重点目標の達成状況・達成度について報告
  - ・平成 23 年度も順番の相違はあるが、基本的には継続で実施。新たな目標も加えていく。
- 資料 1: 丸子地域自治センター 重点目標一覧表

#### 主な質疑の内容

(委員) 上段の目標の方がより重要度・優先度が高いということか。地域の魅力広がる観光・温泉地づくりの中に 地域づくり研究会の開催、 プラン創出研究会の開催とあるが、これは研究会の立ち上げを支援するということが、それともセンターが中心となり主宰するということが。研究会や中心市街地再生事業は、地域協議会の代表を送り込んで一緒に活動していくことが必要ではないか。神の倉工業団地への企業誘致について、企業側のメリットや今後の取り組みについて教えていただきたい。

(センター次長) 御指摘のとおり上から優先順位が付いており、進めていく考えである。

(産業観光課長) 地域づくり研究会について、今までは鹿教湯温泉の「旅館」と「病院」の二つのキーワードで地域づくりをしてきたが、今度は「観光」と「医療」、自然に優しい「農業」ということで、新たに「農業」部分を入れた地域づくりをしていきたいということ。23 年度は研究会を立ち上げていきたいと考えている。プラン創出研究会については、昨年は信州 DC に取り組み、その中で旅館の皆さんにお集まりいただき色々な企画を行ってきたが、今年は、旅館の着地型旅行商品プランということで、ジビエ料理等で旅館の魅力を増すような方向性を研究会において出していきたいと考えている。中心市街地再生事業については、今年も企画に参加をしていく。企業誘致のメリットについては、長野県は、震災による計画停電がないということ、また、企業が製造部門に特化した傾向があることから、操業を中断している中でリスクの分散を図るということで、企業からの打診がきている状況である。計画停電がないこと、また上小地域については地盤が安定しているということで企業誘致をしていきたいと考えている。

(センター次長) 研究会については、基本的には市は支援するという立場。また、中心市街地再生事業における地域協議会の関わりの重要性については、今後の課題として捉え、お諮りをしていきたい。

(委員) 市は、開催や派遣だけを支援すればよいのか。どんな結果につながったかという視点はないのか。

(センター次長) 目標管理の中である程度数字で表すという部分で、何回開催するかを目標とし、回数を重ねる中でより良いものを作っていきたいという形での目標。開催することが最終的な目標ではない。開催によってどこがどう変わったかが一番大事である。昨年ここまでできたから今年も続いてここまでやろうという引き続きの目標である。道路整備等のある程度達成されたものについてはすでに出来上がったものとして落とし、引き続きやらなくてはならないものについては引き続き引き継いでいく。さらに新たな課題として入ってきたものについては課題として加えるということで、23年度作成した。確かに成果がどう見えたかは、報告の中ではあまり明確に書かれていないが、ある程度の成果は上げている。自己評価のマル(印)は、開催した回数の評価ではなく、ある程度目標を一步進んだという意味でのマル(印)であると御理解いただきたい。

(センター長) このシートは広報やホームページ用の体裁になっているが、この前に現状や問題点がこうであるからこういう目標を立ててという組み立てになっている。少し補足させていただくと、安全で安心して暮らせる地域づくりについては、市内ではまだ女子児童・女子生徒など女性を対象とした不審者情報が後を絶たない状況がある。丸子地域においては、小学校単位でボランティア団体や高齢者クラブの皆さんが通学路を中心にパトロール等をしていただいている状況があり、青色防犯パトロールも実施しているが、まだそのような事案が完全に無くなってはいないという認識がある。災害時に自力避難の困難な市民、高齢者や障害のある方については、被災する危険性が高いので、災害時要援護者支援マニュアルに基づき、地域のつながりを高めながら的確に対応できる体制の整備が必要ということ踏まえたうえで目標を立てている。

(委員) 魅力ある丸子地域の街なかづくりについて、社会福祉関係機関との調整会議を年2件以上設定とあるが、具体的な団体等は決まっているか。2件とは、2回ではなく2箇所という意味か。

(産業観光課長) 丸子の社会福祉協議会と武石のエリア。まちづくりグループの市街地再生事業の中の宅配事業に丸子地域と武石地域を考えている。そのために社会福祉協議会と調整会議をもち、進めていきたいと考えている。

(2) 平成 23年度当初予算における主な施策について(各担当課長等)

・平成 23年度当初予算における主な施策について、各担当課長等から説明  
・【資料の訂正】46~50番：主務課「消防署」「消防課」、48番：事業費「10472」「10400」、55番：事業名「ブルームフィールド市群」「ブルームフィールド市郡」  
資料2：平成 23年度 当初予算における主な施策(丸子地域の主な事業)

主な質疑の内容

(委員) 57番に緊急雇用創出事業とあるが、上田市の雇用拡大の意図があるのか。

(丸子地域教育事務所長) 上田市が職員を募集し、半年または1年間雇用すること。

(委員) 上田保健福祉事務所が県主催で放射線講演会を開催するようだが具体化されているか。また上田市や丸子地区でもできないか。放射線と付き合う子育てということで機会を設けていただけたらありがたい。それに伴い、空間放射線量の測定を丸子地域でもできないか。生活面での安全・安心を住民に届けると同時に、観光や農業面でも大事であり、地域を PR していくうえでも必要。空間放射線量や川水の放射線量、農産物を徹底的にモニタリングし、全国的に発信するというのを丸子地域でも行ってはどうか。

(センター次長) 講演会については、上田保健福祉事務所を確認したい。地域の中での放射線量測定は、かなり専門的な分野になる。簡単に実施し、かえって不安を煽るということにもなりかねない。専門家を交えた検討と市全体としての対応が必要だと思う。関係機関にも十分聞いてみる必要がある。

(委員) 53~62番まで 10項目の教育関係のものが出ているが、去年は 23項目で、社会教育関係のことが出ている。機構改革のせいか今年は丸子地域で行われる各行事等の予算が出ていない。これはどう判断したらいいか。丸子郷土博物館の予算が半分程度になっている中で、今後どうなっていくのか。活用法を考えるべきではないか。

(丸子地域教育事務所長) 社会教育関係の予算は掲載されていないが、削られたということはない。全ての事業に昨年並みの予算がついている。大きなものということで掲載している。丸子郷土博物館の予算については、人件費が若干減ったということ。利用率が低下する中で特別展等を考えてはいるが、なかなか入館に結びつかない。活用の検討をしなければいけないと考えている。社会教育の予算関係の資料は、次回の協議会時に提出したい。

(委員) 8番、23年度の LED 防犯灯への交換 460基とあるが、丸子地域に全部で 2313灯ということで、今後の LED 防犯灯への切り替えは継続的に行うのか、それとも要望があれば自治会への調整を加えながら行うのか。27番、上田市全体の対策費はいくらか。29番、展示会への出展補助のみの費用ということで金額が少ないのだと思うが、中小企業へのマーケティング支援の仕方自体をもっと考えるべきではないか。支援の仕方について、多角的に支援するような施策が盛り込まれていくべきではないか。

(市民生活課長) LEDの切り替えの計画性について、上田市では 5年計画で行っていく。各自治会から要望を上げていただき、超えてしまった場合には調整しながら行っていく。最終的に 5年後には全てが LED に換わるように進めていく。全体の予算とすると、20% ずつ行っていくということ。

(産業観光課長) 15万円は一つのブースへ出展するための補助。今まで出展企業にお願いしていたものを市が支援しようということ。中小企業関連のほかの補助については、上田地域の予算も一緒に入っている。詳細として、国際規格審査登録支援事業補助金、新技術等開発事業補助金、新産業創出グループ支援事業補助金、販路拡大支援事業補助金等があり、丸子地域上田地域と分けず上田地域一本で予算化をしている。松くい虫防除対策事業については、上田市全体では 1億 4400万円、うち丸子地域が 3386万円である。

(委員) 要援護者等に対する支援マップを作成する場合に、自治会の協力等が必要だと聞いた。重点项目的な予算化はまだされていないが、実際進めるということになれば、内容によって、今年度あるいは来年度にある程度のお金が必要になる。その辺も御検討いただきたい。

(健康福祉課長) センターの重点目標にも要援護者登録制度ということで掲載しているが、

自治会の皆さん、社会福祉協議会、日頃地域の皆さんの状況を把握いただいている民生児童委員の皆さん方と協働しながら、災害時に支援が必要と思われる方の登録をさせていただき、災害時等に早急な支援ができる形を作り上げていく。当面予算的なものは予定していないが、今後消耗品や機器的なものが必要となれば予算対応していきたい。

(委員) 14番、事業の背景には何があるか。どのようなシステムの方針か。一人暮らしの高齢者ということだが、障害者対象はどのようになっているか。

(健康福祉課長) 緊急通報装置の基本的な機能性能については、現在丸子地域に入れてある機械、非常ボタン、双方向の通話、人感センサー、そこにプラスで今までなかった火災警報器を加えたものを市全体に入れながら設置していく。市全体で一番多いのが上田地区ということで、上田地区は期限が切れるということがあり、また合併時に真田や武石を含め全てやり方が違うという中で、この機を捉え、市全体で高齢者の支援という形に組み替えをしていくということ。丸子地域の皆さんにとっては、性能が落ちるということはない。むしろ火災警報器が加わるという中で進めていかれるものと思っている。基本的には高齢者での対応ということで、今のところ障害者は該当にはなっていない。

(委員) 高齢者と障害者の方が同居しているといった家には、このシステムは導入されないのか。

(健康福祉課長) 原則としては、一人暮らしの高齢者ということでの対応を進めているが、世帯のショート利用や施設入所の頻度等、生活実態を確認しながら進めていかなければいけないと思っている。

(委員) 予算は議会が決めることで、地域協議会委員が色々言えることではないということにはわかっているが、地域振興基金活用事業について、報告だけではなく予定段階で地域協議会に諮っていただくことはできないか。自治センターだよりについては、カラーページを減らしても良いので、もう少しわかりやすく、内容を充実させていただきたい。地域協議会部分も僅かである。協議会の話し合い内容や地域振興活用事業、基金の使い道等、もう少し詳しく、住民にわかりやすい報告をしていただきたい。

(センター長) 地域振興基金活用事業については、2月か3月の時にお話をいただいたが、事後報告になり申し訳なかった。平成24年度からの要求については、今こんな形で考え、予算要求をするということで、地域協議会にお話をしたいとお答えをしたところである。

(委員) 地域協議会だよりについて、当初は事務局と協議会委員が4~5名参加して作っていた。そのように、また協議会委員が数名参加した中で作ってはどうか。

(センター次長) 現在、自治センターだよりのなかに地域協議会だよりが統合されており、そのような場面がなくなってしまったということ。委員の提案については、今後の検討課題としたい。

(委員) 26番、有害鳥獣駆除対策協議会が実施する防止対策に補助するとあるが、去年は、補助以外に原材料の支給等があったと思う。今年の場合、これらの取り組みの中に全部補助するということか。また協議会とはどういうものか。

(産業観光課長) ここではイノシシ・シカ等の駆除を挙げている。予算上では、有害鳥獣防除対策事業費の中に含まれている。主な事業ということで掲載しており、有害鳥獣を駆除するということで853万円を計上している。有害鳥獣駆除対策協議会とは、猟友会の皆さんを主とし、有害鳥獣を駆除していただく予算がこれにあたる。原材料については、有

害鳥獣防除電気柵設置補助金、原材料防護柵設置費等の事業で補助金及び交付金ということで丸子地域も確保されている。ここでは、事業内容の説明が有害鳥獣駆除対策協議会の部分を載せているということ。予算 850万円の中に原材料費の補助金と有害鳥獣駆除対策協議会の予算両方が含まれての金額ということで御理解いただきたい。

(委員) 来年度への要望として、重点目標の結果について、費用対効果もあわせて出していきたい。

## 5 その他

### (1) 次回会議の開催日等について

- ・ 第 2 回丸子地域協議会 平成 23 年 5 月 27 日 (金曜日) 午後 1 時 30 分から  
丸子地域自治センター4階 講堂
- ・ 第 3 回丸子地域協議会 平成 23 年 6 月 30 日 (木曜日) 午後 1 時 30 分から
- ・ 第 4 回丸子地域協議会 平成 23 年 7 月 21 日 (木曜日) 午後 1 時 30 分から
- ・ 第 5 回丸子地域協議会 平成 23 年 8 月 25 日 (木曜日) 午後 1 時 30 分から

資料：平成 23 年度丸子地域協議会年間行事予定表 (案)

### (2) その他

- ・ 丸子地域まちづくり方針の見直し答申について報告 (事務局)
- ・ 分散会について説明 (事務局)
- ・ 4 月 21 日の東内保育園火災 [誤報] について報告 (消防課)
- ・ 落石による市道丸子小牧線通行止めについて報告 (建設課)

## 6 閉会 15:20

地域協議会終了後、分散会を開催 (第 3、4 会議室)